



# ぴっぴだより

No.2 2024.4.30

今年の春はゆっくり?というか、じわじわと・・・その暖かさを連れて来てくれました。桜の花は今(書いているのは4月20日)が満開。例年はパッと咲いては、花冷えのためにサッと散ってしまう我が家のモクレンも、今年はずっと2週間、見事な花を咲かせ続け「そろそろよいかしら?」とようやく花びらを散らし始めました。毎年春はやってきますが、その様子は違うものですね。新しい出会いと共に迎えたぴっぴでの春。その時々、思いが重なり合い混ざり合って、私はその年らしい春色に包まれます。

2023年度ぴっぴの巣立ちのつどいを終えた3月末、私は夫と息子と共に長野県大町市(旧八坂・美麻村)に向かいました。10年ぶりに開かれる山村留学の同窓会に出席するためです。26歳になる息子は中学校時代の3年間を親元を離れて、この八坂・美麻での山村留学生活を送りました。地元の学校に通学、農家さんの子どもになり、新しい「とうさん・かあさん」ができました。また、一人っ子である息子には兄弟もできました。携帯電話や現金は持たない生活。私たちとの連絡手段は手紙のみ。帰省以外で家族と会えるのは年に数回の学校行事の時だけ。ひと言では語りつくせない留学生活ですが、確かなことは、彼らには不自由さがたくさんあって、毎日そのひとつひとつと向き合わなければならなかったこと。でも、そこには同じ境遇の仲間と彼らを支えてくれるたくさんの人々との繋がりがあって、さらに、子どもたちを信じて、遠くから見守ることしかできない私たち親がいたこと。(思春期息子にはラッキーな時間だったかも?しれません)

同窓会で久しぶりに会った、もうすっかり大人になった子どもたちの堂々とした近況報告を聞きながら、私は彼らの成長を「自分のこども」のこどものように嬉しく感じていました。10年ぶりを感じさせないほど息の合った全員での太鼓演奏、農家の「とうさん・かあさん」との再会では、感謝とともに大人らしく甲斐甲斐しい姿で言葉を交わします。家族、指導員、かつての子どもたちがその枠を超えて、お酒を酌み交わしながらの語らいは明け方まで続きました。(我が息子は早々に酔いつぶれていましたが・・・)

タイムカプセルの掘り出し作業も面白い時間でした。雨が降る中、留学センターの敷地内をスコップ片手にみんなでウロウロ。「ここじゃない?」「え〜、こっちでしょ?」「この木の傍だよね」「あった〜!!」等と、必死さに無邪気さが加わった親たちの興奮する姿は子どもたち以上。なかなか開けることのできないカプセルと格闘しながら、10年前当時の話で盛り上がり、出てきた手紙や思い出の品に一喜一憂したり。過去の写真を見ながら、それぞれに年を重ねたことを感じていたけれど、心の中はみんなあの頃と一緒。そこには10年前からの強い絆がありました。全国各地に散らばっていて、めったに会えないけれど、子どもたちのおかげで

繋がることのできた親同士。実は、子どもたちが修園した後もこの過疎地に集い、棚田での米づくりを続けています。

2020年からのコロナ禍以降、山村留学活動そのものや地域交流、家族ぐるみの深い付き合いは薄れ始め、その状況に主任指導員は「いつも迷っていました。この仕事をしていていいのか、自分は何のためにこの仕事をしているんだろう・・・」と思っていたそうです。そんなタイミングでのこの同窓会。「10年ぶりに会ったみんな、ご家族のみなさんを見て、私はこの仕事をしていてよかったって思えたよ。帰ってきてくれてありがとう！」と語る指導員の顔はとても晴れやかでした。

「私もそうだった！」・・・何もわからぬままに始まったぴっぴの生活に戸惑い、日々を懸命に走っていた6年前の自分を思い出します。そこにはぴっぴ1年目の私に「大丈夫？」と肩をたたいて励ましてくれた保護者の皆さまがいて、一緒に歩く子どもたちがいました。支えていただいたことを思い出す度に「ありがとう」の気持ちでいっぱいになります。

タイムカプセルから出てきた10年前の私を書いた息子への手紙の中に「もう大丈夫だね！」の言葉がありました。それを読みながら、10年前の私が今の私に「もう大丈夫だね！」と問いかけているようにも思えたのです。いろいろな環境が私を育ててくれました。そしてそれは現在も進行中。留まることを知らないのではなく、実は「まだまだ大丈夫じゃない」から私は留まることができません。日々挑戦！

先日の長野マラソン。一万人のランナーを、息づかいもわかるほどの距離で応援しながら、私は涙が溢れそうでした。ゴール手前で「やっと帰ってきたよ～」という清ちゃんや「足がつりそうだよ～、ちょっと遅くなっちゃったな」という夫。私の「あと少し！」の声援に「ありがとう」と言葉を返してくれる人たち、倒れそうになって走っている人もいます。苦しいはずなのにスマイル！がたくさん。もう感動しかありません。「そこに行って応援するだけでも価値がある！」と言っていた夫の言葉通り。この時、改めて私は、挑戦することに『人間であること・生きること』を感じました。(でもでも・・・私、ロードは苦手なのでトレイルで顔晴ります！)

挑戦する人生に憧れを抱き、山を走ったり、「歩けば整う」旅で自分と向き合っていたい私。ぴっぴでの生活も、これから来るであろう意図せぬ出来事も私にとってはすべて挑戦です。

親が授けてくれた「超」の字のごとく、日々を自分らしく超えていく・・・。  
そして来春、また心地よく♪Springを響かせたい・・・。いつもありがとうございます。

超子



# 土田より

4月18日(木)、おおきいくみのみんなでお米の種まきをしました

種は去年収穫したひらひのお米です。つないでいく種を、はじめて種まきするまっさん含むおおきい人たちとつなげていく。この可愛い小さな手でまいたお米がまた新しいお米を生み出していく...なんて愛おしい作業でしょう。



そして一週間後...うぶ毛のようなヒョヒョとした芽が出てきました！お米作りの最初の「ほっ」です。

根、こが育ちますように、倒れても起き上がる力が育ちますように。お陽さまからも雨からも風からも栄養をもらって元気に育ちますようにお田植でみなさまと会えますように。



そして、4月25日(木)は、これまたおおきいくみのみんなでじゃがいもの種を植えてきました。新年度が始まったとたんは大忙しですね。草取りや土寄せをしながら収穫を楽しみにしたいです。そして日々の中でも、嬉しいや楽しいのたねをたくさんまいて大事にしていけたらいいなあと思います。はるこ

# 土田より

